はなやま

公益社団法人
宮城県芸術協会
（郵便番号　980-0802）
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電　話　（022）261－7055
ＦＡＸ　（022）214－5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者　吉田利弘

題号の背後にある芸協のシンボルマーク「雲」は、様々な分野の芸術家達がふんわり集まり、巻雲のように盛り上がって纏まった姿を表す。創設当初の理事安倍郁二氏によるデザイン。

芸術祭 夏の開幕

華やかに　順調に 会場に漂う新鮮味

7月9日に開幕した「第59回宮城県芸術祭」は、せんだいメディアテークを会場とする展示系の催事から、10月15日の文芸年鑑の発行まで、順調な運営が行われた。開幕が新型コロナ感染拡大の「第7波」が当地にも及び始めた時期と重なったものの、そのピークを交わす形となった幸運にも恵まれた。異例の「夏開催」に戸惑いも見られたが、例年の秋とは趣の異なる夏の花で彩られた華道をはじめ、会場内には新鮮味が漂った。

芸術祭は、第Ⅰ期（7月9～12日）の華道展、書道展を皮切りに、これまで第Ⅱ期（同16～19日）の写真展、写真公募展「フォトサミット in Sendai 2022」、彫刻展、彫刻公募展、絵画展・公募の部、第Ⅲ期（同23～26日）の絵画展の各作品展示会が全て滞りなく終了。日立システムズホール仙台での音楽コンクール・ガラコンサート（9月25日）、山形県庄内地方の神社仏閣、文化施設を巡る文学散歩（10月6、7日）も計画通りにこなした。

芸術祭の開幕を彩った華道展。例年の秋とは異なる夏の花材が共演、漂う明るく華やいだ雰囲気とともに、多彩な作品が奏でる絶妙のハーモニーが入場者らを楽しませた。

秋から夏へ、開幕時期が2カ月半も前倒しとなったことに伴う勝手の違い、そして準備が大詰めを迎えた段階での連日の猛暑、開幕直前になってのコロナ感染者数の急増など、不安要素が少なくない中での芸術祭の滑り出しだったが、運営面でのトラブルもなく、展示会期間中の戻り梅雨のような天候も乗り越えて、例年とさほど変わらない来場者数を確保した。

事前の周知が行き届き、何より各部による綿密で目配りの利いた積極的な取り組みが、十分な成果を挙げ得た背景にある。「型通り」「例年通り」は慢心を生みがちで、時期の変更に伴う危機感やいつもとは違う緊張感が、いい方向に作用した側面があったのかもしれない。

関係者が一丸となって対応し、前回の応募者の落ち込みを大きく挽回したフォトサミットや季節を異にすることによる花材の違いが作風に影響し、熱い新風を吹き込む形ともなって、意欲的な作品が並んだ華道展などが、その証しに映る。

確かに力作の数々は、県民らの大きな感動と深い共感を呼んだ。「東北の風土を活写した作品に、ふるさとの豊かさを実感した」「夏の花が新鮮。傷みやすいはずで苦労も多かったのでは」といった称賛の声が聞かれた。

今後、3年ぶりの復活公演となる長唄演奏会（10月16日、トークネットホール仙台）、文芸祭（同22日、東京エレクトロンホール宮城）、音楽会（同28日、日立システムズホール仙台）、さらに音楽コンクール（明年2～3月、同）が控えている。次号以降、内容を紹介する。先行き不透明なコロナの感染動向をはじめ、今後も予期せぬ事態が起こり得るが、総力を挙げて「暑い夏」を乗り切った当協会であれば、しのげないことはあるまい。引き続き、気を抜くことなく入念な準備を進めて、諸事業の完遂に努めたい。

熱い競演

【華道展（７月９～12日）】出展は前期・後期計50人、46点。各流派が結束し、新型コロナ感染禍以前に近い作品数を確保。アイデアを凝らした力作が会場を埋め、魅力がぐんと増した。

芸術祭華道展

芸術祭写真展②

【写真展（７月16～19日）】最高賞、宮城県芸術祭賞の受賞作品。題名は「海岸に付着する波の華」。着眼、アングル、構図の全てに優れ、自然系写真としては出色。感動の波がはじけた。

【書道展（７月９～12日）】出展は役員の部60点、会員の部205点の265点。昨年を６点上回った。写真は最高賞、宮城県芸術祭賞の受賞作品。題名は「高青邱詩」（漢字）。技量光る。

芸術祭書道展

【写真展（７月16～19日）】出展は73点。わずかながら昨年を上回った。「わが街10年の歩み」「運営委員渾身の１枚」の企画展もあり、多彩な展示構成で入場者らの心を引き付けた。

芸術祭写真展①

芸術祭フォトサミット

【フォトサミット in Sendai 2022（７月16～19日）】「自由」「東北の風土」の２部門、応募総数1222点のうち、入賞・入選作品106点を展示。写真は大賞受賞作品。題名は「T翁」。

「成長の音色」響く ガラコンサート

第59回宮城県芸術祭の一環、第42回音楽コンクールガラコンサートが９月25日、日立システムズホール仙台で開かれた。ガラコンは２、３月に行われた音楽コンクールで入賞した子どもたちに「晴れの舞台」を用意して、さらなる成長を後押しする人材育成事業で、今回が６回目。この日に備えて日々、精進を重ねてきた「未来の音楽家」は、成果を臆することなく披露し、観客から温かい大きな拍手を浴びた。

ピアノ部門は各級の最優秀者５人を含む受賞者８人、ヴァイオリン部門は最優秀賞の３人ら21人が参加した。前日の芸協室内管弦楽団（佐藤寿一さん指揮）とのリハーサルを経て臨んだ本番の舞台。緊張を隠せなかったが、いずれも堂々とした共演ぶりで、一つの目標とし半年間、向き合ってきた地道な練習の到達点を示した。

コンクールとガラコンは、年度をはさむ日程のため、進学や進級に伴う環境の変化があったり、夏場に新型コロナウイルスの感染拡大があったり、集中して取り組む上で難しい状況もあったと思われるが、それぞれの演奏を通じて確かな成長を印象付けた。

大きな舞台を経験した子どもたち。指導に当たる先生や家族、友人・知人ら、多くの入場者からの称賛と励ましを受けて、一層の高みを目指す弾みになったに違いない。

芸術祭絵画展・公募の部

【絵画展・公募の部（７月16～19日）】出展は90点。昨年を若干上回った。写真は最高賞、宮城県芸術協会賞受賞作品。題名は「初原」。基本に忠実で、何より丁寧な作風が印象的だ。

至芸の美

【彫刻展（7月16～19日）】出展は26点。昨年を少々上回った。ユニークな作品が目立ち、展示にも工夫を凝らした。大胆で野心的な試行は飛躍の源の一つ。ファンの注目を集めた。

芸術祭彫刻展①

芸術祭絵画展①

【絵画展（7月23～26日）】日本画30点、洋画163点、役員76点を展示。開催の前倒しを乗り越え、ほぼ昨年並みを確保した。力作が多く、洗練さも増した印象。随所に人垣ができた。

芸術祭絵画展②

【絵画展（7月23～26日）】最高賞、宮城県芸術祭賞受賞作品（日本画）。題名は「序章」。麻紙に岩絵の具、箔、ペンで仕上げた。目の行き届いた繊細なタッチは秀逸。ひときわ目を引いた。

【彫刻展（7月16～19日）】最高賞、宮城県芸術祭賞受賞作品。題名は「なんとかなる！」。彫刻の多様性を見せつけるような斬新な造形。定番的な作品にはない独特な作風が関心を呼んだ。

芸術祭彫刻展②

芸術祭絵画展③

【絵画展（7月23～26日）】最高賞、宮城県芸術祭賞受賞作品（洋画）。題名は「透明な秋に出会う頃」。キャンバスに油彩した。緻密な構成と透明感のある色彩が特徴。穏やかながら力強い。

【彫刻公募展（7月16～19日）】入選16作品を展示。昨年を上回った。高校生ら若者の応募が目立ち、躍進も顕著。写真は最高賞、宮城県芸術協会賞受賞作品。題名は「根源に宿る」。

芸術祭彫刻公募展

3年ぶり1泊バスツアー コロナ乗り越え文学散歩

第59回県芸術祭の一環、文学散歩「秋の庄内とミイラ寺」が10月6、7の両日、一般を含む23名の参加で行われた。新型コロナ禍で一昨年は中止、昨年は日帰りでの実施で、3年ぶりに1泊バスツアーが復活した。

メインは湯殿山の即身仏を守る大日坊（鶴岡市）と海向寺（酒田市）の拝観。江戸時代の宗教人がなぜ即身成仏をとげたのか、興味深い面と両寺の金銭感覚の違いが際立った。

山形市の文翔館（旧山形県庁）、鶴岡市の藤沢周平記念館、加茂水族館、酒田市の土門拳記念館にも立ち寄った。多くの文学碑が建つ酒田市の日和山公園散策は、雨天により中止となった。それでも、普段近寄り難い寺を視察するなど、印象に残る旅路となったようで、次回を期待する声が聞かれた。

宮城県文芸年鑑を発行 3年ぶり復活の公募作も掲載

第59回宮城県芸術祭の一環、2022年版の宮城県文芸年鑑が10月15日、発行された。700部、1000円。書店販売のほか、事務局でも取り扱っている。

詩、短歌、俳句、川柳、散文・小説の5分野を網羅。暑い夏の審査、編集作業を乗り切り、例年通りの発行となった。分野ごとに配置、文芸賞受賞作を真っ先に紹介し、会員らの作品も掲載した。

新型コロナ禍で中止していた文芸作品の公募も3年ぶりに実施。一般、ジュニアに分けて、入選作品を巻末に組み込んだ。

芸術文化交流に新たな足跡
県と吉林省の事業に協力
友好県省締結35周年記念

宮城県と中国吉林省との友好県省締結35周年を記念した事業の一環、芸術文化の交流作品展が９月21～25日、県美術館であった。長年、事業に協力してきている当協会は今回も趣旨に賛同、コロナ禍を背景にオンライン形式による実施となった。

企画タイトルは「芸術文化交流35年目の現在地～工芸・写真展」。工芸、写真両部門は交流の実績があり、映像等を駆使することで一定程度、リアル展示らしさを補えるとして白羽の矢が立った。出品経験者を中心に精力的に活動を重ねている会員に協力してもらい、「交流の現在地」の雰囲気を醸し出した。

県美術館講堂での開会式と県民ギャラリーにおける作品展示の２本立てで実施した。

21日午前の開会式には、県と当協会の関係者ら約50人が参加。県と吉林省の代表（県側は千葉隆政県経済商工観光部長）、当協会の吉田利弘理事長と吉林省民間工芸美術館長があいさつ、事業の意義を確認し合った後、西村一観執行理事と佐藤華畊華道部長、手塚菖園副部長による生け花実演のパフォーマンスや「皖山会・一音舎」による邦楽合奏の動画上映を交えつつ、佐藤皖山執行理事の尺八演奏、夫人で邦楽部三曲会員の佳世子さんを加えての和楽器の講話と実演で交流。楽器演奏者によるオンライン対談などで、約２時間に及ぶ交歓を締めくくった。

同日午後開幕の作品展には工芸20点（吉林省はモニター映像20点）、写真63点（同省側の34点を含む）を展示。吉林省側の写真は送信データをパネルに加工、作品化した。工芸はリアル感をにじませるため、制作の様子や作品を撮影、編集した映像を上映。短文の作品解説を写し込む手間も加えた。オンライン併用という異例の展示会となったが、入場者は想像力の助けを借りつつ、豊かな作品世界に浸った。

吉林省側は民間工芸美術館で事業を実施。共に35年の積み重ねへの思いをかみしめた。

当協会の役員は「オンラインということで手探り状態でのスタート。不安もあったが、交流の在り方を広げることができた。皆さんの尽力で期待通りの成果を挙げられた」と評価した。

県は、文化芸術のほか福祉、アニメ、環境教育の分野で交流事業を企画している。

緊張の舞台、継続の励みに
第２回県各流子ども舞踊大会

伝統芸能の日本舞踊を次世代に継承する足掛かりにとの思いを込めた「第２回宮城県各流子ども舞踊大会」が７月24日、仙台市福祉プラザふれあいホールで開かれた。子どもたちは日頃の稽古の成果を披露。応援の家族や知人、友人ら約１００人から大きな拍手を浴びていた。

公益社団法人日本舞踊協会宮城県支部、宮城県扇の会と当協会の共催。藤間、花柳、水木、若柳、吉村の各流派10社中の４歳から中学３年生までの19人が舞台に立った。

未就学児、小学生低学年、同高学年、中学生の４部に分けて実施した。いつもの慣れた稽古場とは異なる大きなステージ。あでやかな衣装に身を包んだ子どもたちは、指導を受ける先生たちが熱い思いで見守る中、緊張感を漂わせながら「充実の舞い」を披露した。

新型コロナ禍が長引いて、発表の機会が抑えられ気味で、おさらい会などの実施がせいぜい。流派を超えて、これだけ多くの社中の子どもたちが集う機会は貴重だ。ふだん顔を合わせることのない同年齢の出演者の舞いに刺激を受け、意欲をかき立てられて、日舞継続と精進の励みになったようだ。

想定上回る16校で実施へ
書道部講師派遣事業

本年度の書道部講師派遣事業は、小中学校16校で実施されることになった。見込んだ12校を大きく上回る上々の実績。書道に触れてもらう機会で、新型コロナ禍により２年連続見送られた点も加味して、当初想定の予算の超過を認めることにした。

公益目的事業の人材育成事業に位置付けられ、県内の小中学校に会員を講師として派遣し、子どもたちに書の手ほどきを行う書道部の企画事業。芸術文化に関する出前授業で、後進の育成や裾野拡大の意図を込めた。

本年度は応募が殺到。コロナで中止が続いて、学校側の関心の低下が懸念されたが、定着ぶりを示した形。小学校の教員らからも希望が寄せられた。本来、子どもたち対象で趣旨にそぐわないとの見方もあるが、教師の指導力の強化を通じて授業の質を高め、児童に書の楽しさを伝えられると判断し、許容した。

教員の多忙化対策の一環で、部活動の地域移行の流れが強まっている。近い将来、土日を中心に各分野の会員が学校に出向き、指導に当たる可能性もある。社会の変化を見据え、公益法人としての在り方を問い続ける。講師派遣の試みは、そんな時代の先駆けでもあろうか。

第59回宮城県芸術祭受賞者（会員の部）

賞名	部門	作品名	氏名
宮城県芸術祭賞	書道部	高青邱詩（漢字）	鈴木霽月（仙台市）
	写真部	海岸に付着する波の華	佐藤節子（仙台市）
	彫刻部	なんとかなる！	姉歯公也（大崎市）
	絵画部（日本画）	序章	荒井静子（仙台市）
	絵画部（洋画）	透明な秋に出会う頃	中島みどり（大和町）
	文芸部	ルーシ幻想	八田一夫（仙台市）
宮城県知事賞	書道部	堀内大学の詩「夕ぐれの時はよい時」より（近代詩文）	建部紘子（多賀城市）
	写真部	原野	竹内邦昭（石巻市）
	彫刻部	月夜	赤井靖武（塩釜市）
	絵画部（日本画）	月の光り	小泉百合子（多賀城市）
	絵画部（洋画）	T氏の迷宮	桜井竣平（仙台市）
	文芸部	落葉	斎藤砂火絵（仙台市）
	文芸部	団子虫	菊地かほる（大崎市）
	文芸部	向う岸	日下節子（大河原町）
	文芸部	目立たない演技	藤本真喜子（大崎市）
仙台市長賞	書道部	駕軽就熟（篆刻）	遊佐聖心（栗原市）
	絵画部（日本画）	静寂	仲野う多代（仙台市）
	絵画部（洋画）	愛である時	安達秀子（仙台市）
河北新報社賞	書道部	風神（墨象）	藤原紅雲（色麻町）
	写真部	風雪の足跡	平間操（柴田町）
	彫刻部	星への祈り	木村民男（石巻市）
	絵画部（日本画）	朗朗	數本冴英佳（仙台市）
	絵画部（洋画）	生命譜（2022）	渡邉昭砆（仙台市）
	文芸部	四温のひかり	佐藤みね（美里町）
宮城県教育委員会教育長賞	書道部	春日山（かな）	西條玉静（仙台市）
	絵画部（洋画）	DIVINE INSPIRATION 2	岡崎義恵（仙台市）
宮城県教育委員会教育長特別賞	書道部	甘露（少字）	島津和子（岩沼市）
	書道部	超海青（近代詩文）	佐藤華炎（仙台市）
	絵画部（日本画）	夏閉い	大槻勝美（仙台市）
	絵画部（洋画）	宙での佇まい	畑中良二（石巻市）
仙台市教育委員会教育長賞	書道部	蔣士銓詩（漢字）	宍戸青園（岩沼市）
	絵画部（洋画）	E－M－A－S	大内隆（松島町）
宮城県議会議長賞	書道部	斎藤史の歌（近代詩文）	大友四峰（岩沼市）
	絵画部（洋画）	風景との対話V	大坂祥春（大崎市）
仙台市議会議長賞	書道部	酒味（漢字）	永澤翠雪（多賀城市）
	絵画部（洋画）	鎮	柴田治（仙台市）
公益財団法人宮城県文化振興財団賞	書道部	谷川俊太郎の詩より（近代詩文）	大友きか子（名取市）
	書道部	鄭審詩（漢字）	石井秀苑（仙台市）
	書道部	蘇軾詩「詠檳榔」（漢字）	菅原紫雲（仙台市）
	写真部	沈黙	氏家国浩（大崎市）
	絵画部（洋画）	胡蝶の夢－陶酔－	佐藤結（仙台市）
	文芸部	ごま粒に見ゆ	岡本勝（仙台市）
公益財団法人仙台市民文化事業団賞	書道部	金子みすゞの詩「私のエプロン」（近代詩文）	笹野美智子（仙台市）
	写真部	紅にほう乙女	工藤るみ（仙台市）
	絵画部（日本画）	杜の春	山本政彰（仙台市）
	絵画部（洋画）	木星と火星の間で	及川幸子（仙台市）
公益財団法人カメイ社会教育振興財団賞	絵画部（日本画）	宇宙浮遊	桶谷光代（仙台市）
	絵画部（洋画）	兆	金子玲子（仙台市）
菅野美術館賞	彫刻部	想	山中ミサ子（仙台市）
門伝勝太郎賞	書道部	竹内勝太郎の詩「焚火」（近代詩文）	佐々木一峰（大崎市）
	絵画部（洋画）	変わる世界	菅原さち子（仙台市）
宮城県芸術祭奨励賞	書道部	彭孫遹詩（漢字）	小元佳香（大崎市）
	書道部	山家集（かな）	赤川恵舟（仙台市）
	書道部	墨氏兼愛（篆刻）	伊藤煌容（多賀城市）
	書道部	藤井杜志の詩「丹頂」（近代詩文）	木村笙園（大崎市）
	書道部	芽鱗（少字）	齋藤晴雲（塩釜市）
	書道部	流（墨象）	浅野彩紅（仙台市）
	写真部	境界（ロマン）	三浦健太郎（仙台市）
	写真部	寒い夏	竹内加代子（仙台市）
	絵画部（洋画）	時を紡ぐ Ⅵ	堀英敏（仙台市）
	絵画部（洋画）	望郷 Ⅲ	小泉留美子（仙台市）
	絵画部（洋画）	マイ・ヴィーナス	佐藤慶子（白石市）
	文芸部	平和な声	粕谷ゆきみ（仙台市）

※工芸部の受賞者は11月６日決定の予定

第59回宮城県芸術祭　絵画展・公募の部　彫刻公募展　フォトサミット in Sendai 2022　受賞者

部門	賞名	作品名	氏名
絵画展・公募の部	宮城県芸術協会賞	初原	釣舟富紀子（塩釜市）
	優秀賞	重なりの風景	高橋真由美（仙台市）
	優秀賞	アンカー	鈴木祥子（仙台市）
	奨励賞	聖蓮	和田正弘（石巻市）
	奨励賞	dario	佐藤由季枝（仙台市）
	奨励賞	希望	増田敏昭（仙台市）
	奨励賞	まなざし	門間光子（仙台市）
	奨励賞	想－KESHI－	佐藤ゆき江（岩沼市）
	奨励賞	凪波	水瀬輝（仙台市）
	奨励賞	嘆きの壁	庄司真弓（Powell Bush）（仙台市）
彫刻公募展	宮城県芸術協会賞	根源に宿る	渡部信隆（仙台市）
	奨励賞	放	保﨑裕子（仙台市）
	奨励賞	めぐみ	藤平みのり（富谷市）
フォトサミット in Sendai 2022	フォトサミット in Sendai 大賞	T翁	中村邦夫（福島県）
	河北新報社賞	天空のオアシス	菅原眞一郎（石巻市）
	宮城県知事賞	晩秋の朝靄	三浦早苗（大崎市）
	青森県知事賞	爛漫	高橋裕大（青森県）
	岩手県知事賞	窓を見上げて	福田修司（山口県）
	秋田県知事賞	一緒の楽しみ	安保邦夫（秋田県）
	山形県知事賞	鷺の寒ざらし	鈴木宏美（仙台市）
	福島県知事賞	御神輿渡御	志賀正明（福島県）
	仙台市長賞	支倉常長供養舞	高平但（東松島市）
	宮城県教育委員会教育長賞	笑顔と心和む里の風景	原田雅博（仙台市）
	仙台市教育委員会教育長賞	池塘彩々	阿部香織（仙台市）
	宮城県議会議長賞	雲海に注ぐ	平塚芳和（石巻市）
	仙台市議会議長賞	桜流鏑馬	相沢開（石巻市）
	公益財団法人宮城県文化振興財団賞	荘厳美麗	今野千賀子（大崎市）
	大崎市長賞	夕焼け小焼け	狩野庸志（大崎市）
	JAL賞	避難丘17	大沼二郎（名取市）
	東北電力賞	三陸花火大会	松田偲（仙台市）
	東北放送賞	葦を運ぶ	横田弘（塩釜市）
	ニコン賞	透き通るような青と白	佐々木均（多賀城市）
	堀内カラー賞	祈り	先﨑康人（仙台市）
	tcd東北カラーデューブ賞	紅白花合戦	山辺浩美（仙台市）

新県民会館でヒアリング
基本設計めぐり意見要望

新県民会館の基本設計策定に向けて、設計条件を整理するため、宮城県は施設使用で関わりの深い芸術文化団体などを対象に、ヒアリングを進めている。そうした団体の一つ、当協会への意見聴取は8月8日、東京エレクトロンホール宮城の会議室で行われ、役員をはじめ、名誉会員、参事、さらに関心の強い各部の部長らに参加を呼び掛け、約30人が出席した。

ヒアリングは、県が既に確定している二つの基本構想（県民会館整備基本構想、仙台医療センター跡地における県有施設の再編に向けた基本構想）を踏まえつつ、利用機会の多い専門家らから「施設の使い勝手」等について考え方を聴取。建設に向けて根幹となる基本設計に反映させるのが趣旨だ。

冒頭、県の黒澤治消費生活・文化課長がヒアリング実施の意図を述べた後、担当職員が基本構想の概要及び聴取の目安となる項目等をまとめた意見交換資料を基に説明、出席した会員らの率直な意見・要望、感想を求めた。

質疑はホール（舞台・客席・楽屋など）、創造・育成・連携拠点（スタジオ・和室など）、交流・コミュニティ（ギャラリー・アトリエ・会議室など）に分けて実施。出席者は「ホールには花道や回り舞台がほしい」「楽屋は使い勝手に関わり、その広さや数の充実を図るべきだ」「ギャラリーとスタジオの連動使用に向けて付帯設備等への目配りを尽くしてほしい」「和室は多用途を意識し、間取りや間仕切りに配慮すべきだ」など、さまざまな意見・要望を述べた。

予定した2時間弱では聴取が足りず、和室の整備を中心に後日、改めて、役員らが代表する形で意見を交換する機会が設けられた。

県は、当協会のほか、施設の使用または管理について関わりのある公益財団法人宮城県文化振興財団などからも意見を聴き、設計条件リストをブラッシュアップし、9～11月を目標に「基本設計1」を策定。12月に再度、意見を聴取し、明年5月をめどに「基本設計2」をまとめ、最終説明を行うという。その後、実施設計を経て、令和7年度に着工、同10年度の開館を予定している。

芸術選奨に森眞澄氏
輝く業績、努力が結実

森　眞澄氏
美術（洋画）仙台市

モダンアート界での活躍が目覚ましい。宮城県芸術祭・絵画展のほか、河北美術展など公募展での入賞多数。日韓交流展に参加し、個展開催も。多彩な色とさまざまな形を自在に組み合わせた深みのある創作で知られ、ファンも多い。モダンアート協会会員、新現美術協会会員、絵画部運営委員。72歳。

令和4年度の宮城県芸術選奨受賞者がこのほど決定し、12月5日に県庁社内で授賞式が行われる。受賞者は芸術選奨4人、同新人賞6人。当協会の絵画部会員（運営委員）、森眞澄氏（仙台市）が芸術選奨＝美術（洋画）＝に選出された。例年、複数名の会員が選出されてきたが、各分野の芸術家の活躍具合や選定のタイミング等が背景にあってか、今回は少なめだった。県の芸術文化の発展に貢献された森氏の業績と喜びの声を紹介する。

この度は思いもよらないお話で驚いております。教員として携わりながら制作を続けた活動を評価して頂けたのであれば嬉しいです。以前は海外などで得たパワーを「DRIFT」シリーズとして、近年は「忘れ去る」をテーマに昔の記憶に薄く膜がかかった様子を意識して制作しております。今後の創作の指針に迷いを感じていたところで、この度の受賞は大変ありがたい応援となりました。先だって個展を開き満足しておりましたが、ぜひもう一度開きたいと考える切っ掛けとなりました。今後の目標として見据え、作品制作を続けて参りたいと思います。

「再度の個展目標に」

森、太田、江田
山内の４氏選出
文化の日表彰、業績評価

令和4年の文化の日表彰受賞者（教育文化功労）がこのほど決まった。芸術・文化の分野において、長年、普及・発展に尽くし、地域活動等でも顕著な功績があったと認められた方々で、当協会からは森敏美氏（絵画・洋画、運営委員）＝仙台市、太田蓮紅（幸江）氏（書道・理事）＝宮城県美里町、江田蕙（恵一）氏（工芸・金工）＝栃木県佐野市、山内とも子氏（邦楽・琵琶）＝仙台市＝の4名が選ばれた。

森氏はモザイクアートを多数制作。宮城県芸術祭絵画展で最高賞を受賞するなど、県内外の絵画展・公募展にも積極的に出品、高い評価を得ている。公共施設等で自作の壁画を設置するなど、活躍は多方面に及ぶ。東北生活文化大学で学生の指導にも尽力。社会人対象の講座開設、ワークショップも開催、震災復興にも取り組む。美術解剖学会理事、新現美術協会会員。モザイク会議会員、フレスコ協会会員。令和2年度、宮城県芸術選奨を受けている。

太田氏は県芸術祭書道展でたびたび入賞。河北書道展をはじめ全国紙の展示会、書道芸術院展等、県内外の展示会にも積極的に出品している。前衛書部（墨象）をけん引するベテランでありながら、行動はエネルギッシュで道を究める向上心も健在。いまなお研究を怠らない。「蓮紅社」を主宰し、県内に加え岩手県等の県外にまで足を運び、精力的に後進を指導している。理事（2期目）として、協会の発展にも貢献。令和3年度、県芸術選奨を受賞している。

江田氏は県外在住だが、長年、県芸術祭工芸展に出展し続けるなど、県内の工芸・金工分野の普及・発展に尽くしている。砂鉄を炭で鍛錬する和銑材料を中心に制作し、天命鋳物師として、技量、芸術的センスに定評。風鈴、鉄瓶・釜の茶器で知られる。伝統工芸展日本金工展、東日本伝統工芸展などで入賞多数。第47回日本金工展（平成30年）で、大賞（文部科学大臣賞）を受賞。海外で技術指導、講演も。日本工芸会会員。日本伝統工芸展鑑・審査委員。

山内氏は平家物語を琵琶の伴奏で語る伝統芸能「平曲（平家琵琶）」の継承者（平家詞曲秘曲琵琶弾法皆伝）。館山甲午氏（故人）に師事し、修練を重ねた数少ない奏者で、県内外で演奏を披露している。琵琶の音色と語りが奥行きのある世界を演出、独特の美を今に伝える。鎮魂の詞といわれるだけに、東日本大震災後、被災者らに対する哀悼と復興への祈りを込めたイベントにも協力している。会員歴は浅いが、協会の多様性、幅の広さを象徴する貴重な存在。

4氏は各部門の第一線で活動中。一層の活躍が期待される。11月28日の第59回宮城県芸術祭表彰式で、受賞が披露される。

おわび・訂正　令和4年会員名簿の肩書に誤りがありました。工芸部の運営委員、金工は江田蕙さん、ガラスは尾形かなみさんではなく、村山耕二さんでした。住所等に間違いはありません。ご迷惑をおわびし、訂正いたします。

「写真教室」を開催 写真部役員ら指南

当協会写真部は9月9、16、30日の3回にわたり、協会会議室で写真教室（セミナー）を開いた。芸術祭関連行事の一環で、恒例の企画。芸術祭写真展の審査員や運営委員らが講師を務め、デジタル現像、カラーマネジメントモニター等の技術指導を中心に、優れた写真の解説等まで、幅広いテーマで講義した。

9日は運営委員の伊藤トオルさんが講師。デジタルデータとRAW現像の基礎知識のほか、現像ソフトについて解説した。参加者のデータ処理や質問も受け付けた。

デジカメ、スマホの普及、一般化を背景にした一億総写真家時代を反映。写真愛好の裾野は広がっているものの、芸術写真は「近くて遠い」のが現実だろう。気軽に参加できるセミナーは絶好の研修機会。年配者を中心とした参加者は、メモを取るなど真剣な表情で受講。撮影の技量向上へ、習熟に励んだ。

新入会員

【書道部】井上紫玉（依子）＝名取市、臼井真理＝気仙沼市、波部千秋＝利府町、茂木絢水＝気仙沼市【華道部】阿部絹舟（絹子）＝仙台市青葉区、戸部秀華（秀子）＝仙台市太白区、比嘉容仙（牧子）＝仙台市若林区【洋楽部】笈沼甲子＝東京都、申寿美（田中寿美）＝名取市、玉川舞子＝仙台市太白区【文芸部】鈴木かちよ＝仙台市泉区【茶道部】庄子宗洋（洋子）＝仙台市宮城野区、女川宗弘（弘子）＝仙台市青葉区、加賀宗尚（尚子）＝名取市【写真部】氏家国浩＝大崎市、大友紀夫＝仙台市青葉区、狩野良介＝塩釜市、中島澄江＝仙台市太白区

事務局日誌

会務報告

【第3回理事会】8月8日

・正会員の入会について

後援

☆第74回春光会展
9月7～12日
大崎市民ギャラリー

☆陽だまり弦楽アカデミーコンサートvol.3
9月11日
山下地域交流センター

☆加納鳴鳳小品展
9月16～19日
大崎市民ギャラリー

☆陽だまりコンサートvol.10
10月1日
山下地域交流センター

☆東北書道秀抜展
10月5～9日
宮城県美術館

☆第52回宮城書芸院展併催教育部展
10月20～23日
大崎市民ギャラリー

☆第35回みやぎ発明くふう展及び第26回みやぎ未来の科学の夢絵画展
10月25～29日
東北電力グリーンプラザ

☆第6回日本画緑彩会展
10月25～30日
東北電力グリーンプラザ

☆第61回洗心書道展
10月27～30日
宮城県美術館

☆混声合唱団クール・リュミエール第54回定期演奏会
10月29日
日立システムズホール仙台

☆第11回チャリティリサイタル若柳梅京華舞台
10月30日
碧水園

会員の入賞・入選など

（事務局に連絡があったもの）

◇河北書道展〈第一部漢字〉▽委嘱作家特別賞＝末永瑞鳳▽河北会友賞＝菅原紫雲▽河北賞＝山田華鳳〈第二部かな〉▽委嘱作家特別賞＝黒田清苑〈第三部墨象〉▽委嘱作家特別賞＝浅野彩紅▽河北会友賞＝佐々木青霞〈第四部近代詩文〉▽委嘱作家特別賞＝小野和子▽河北会友賞＝赤間裕子▽会友秀逸賞＝津川えりか〈第五部少字〉委嘱作家特別賞＝金沢泉明〈第六部篆刻・刻字〉仙台市教育委員会賞＝佐藤玄風〈第七部一行書〉奨励賞＝石田蒼龍

◇再興第107回院展▽入選＝三浦長悦

受贈書

（　）は寄贈者

『金起林　作品集Ⅰ』（南北社）

謹弔

文芸部（川柳）佐藤点加殿　令和3年2月27日
文芸部（川柳）高橋朗風殿　5月19日
絵画部（洋画）千葉常太郎殿　8月7日
絵画部（洋画）加藤安徳殿　8月9日
書道部　遠藤芙蓉殿　8月23日
写真部　千葉精一殿　8月25日
茶道部（織田流前茶道）朝比奈南樹殿
演劇部　あさひなさくら殿　9月12日
邦楽部（三曲）大友佐美好殿　9月14日

芸術祭表彰式、11月28日に仙台市のホテル、祝宴見送り

第59回宮城県芸術祭表彰式が11月28日、ホテルメトロポリタン仙台で行われる。新型コロナウイルス禍が終息しない中、今回も芸術祭共催団体の関係者、当協会役員のほか、受賞者や功績者のみに出席を限定、前回並みの120人程度に規模を縮小しての開催となる。

表彰式は午後2時開始。運営は賞状や記念品の伝達にとどめ、恒例の祝宴は今回も見送る。物足りなさを感じる向きもあると思われるが、依然、立食が難しい状況ではやむを得ない措置。前回に続いて茶話会を企画し、ささやかながら可能な趣向で晴れの式を演出。受賞者らの栄誉をたたえる。

けやきの譜

「出口」がささやかれ始めてはいるが、新型コロナウイルス感染の世界的流行は今、どの位置にあるのだろうか。新型コロナのワクチンは発生から1年未満で実用化された。ゲノム解析技術の発展によるものだという▼大学での基礎研究が、薬として一般に供給されるには、民間企業の巨額投資が欠かせない。ノーベル賞受賞者の山中伸弥氏は、この研究と投資の間を「死の谷」という。いかに難しくとも、この谷を越えなれば、薬の商品化にはたどり着けない▼ロシアのウクライナ侵攻は、8カ月を超えた。ここにも平和を望む人々との間に「死の谷」があるように思う。谷の向こうには、平和を何より大事にする国連があるが、出口への道筋を描けないでいる。谷の深さを嘆かざるを得ない現実が悲しい▼戦争は遠い国の話にとどまるものではなく、無力感が地球規模で広がる。一人一人、一つ一つは微力で多大の困難を伴おうが、芸術を含めた人類のあらゆる英知をより合わせ、谷に橋を架ける営為を信じるほかあるまい。